

企業調査レポート

安藤証券株式会社
調査部：土田 陽一
平成 24 年 2 月 10 日

トヨタ自動車（7203）

業績推移（連結ベース、単位はEPSと配当が円、他は百万円、予は会社側予想）

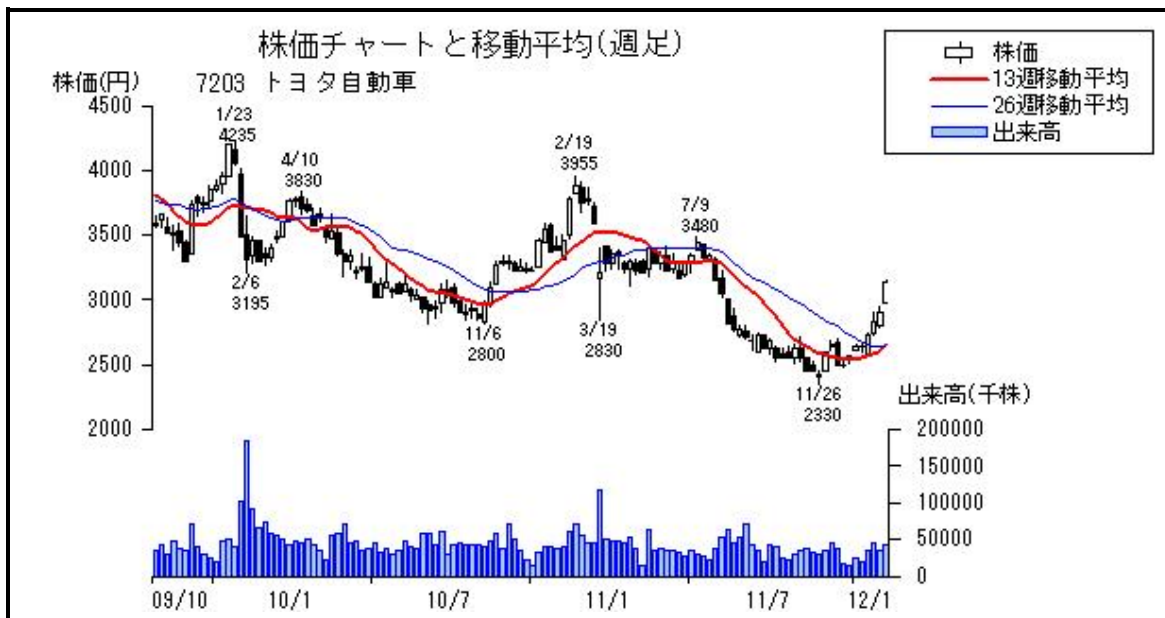
決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	EPS	配当
10/3	18,950,973 -7.7%	147,516 -	291,468 -	209,456 -	66.79	45.00
11/3	18,993,688 +0.2%	468,279 3.2倍	563,290 +93.3%	408,183 +94.9%	130.17	50.00
12/3 予	18,300,000 -3.7%	270,000 -42.3%	270,000 -52.1%	200,000 -51.0%	63.78	-

（配当予想は非公表）

各種指標（株価、配当利回りのカッコ内は日付）

株 価	3,130 円(2/ 9)	発行済株式数	3,447,997 千株(11/12 期)
連結 P E R	49.1 倍(12/3 期予)	連結 B P S	3,196.70 円(11/12 期)
連結 P B R	1.0 倍(11/12 期)	連結 R O E	3.9%(11/3 期)
配当利回り	- %(2/ 9)	上場市場	東証・大証・名証一部他

株価チャート（週足）



本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、銘柄の選定、投資判断の最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料は、信頼出来ると考えられる情報に基づいて作成されていますが、安藤証券は、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後、予告なく変更される事があります。事前の了承なく複製または転送等行わないようお願いします。

業績動向

2011年4 - 12月期の連結業績は、大震災やタイで発生した洪水に伴う減産が響いて2ケタ減収減益となったものの、10 - 12月期の3カ月間では連結販売台数が日本と北米を中心に前年同期比16万7千台増加、円高の影響を増収効果や原価改善などで吸収、営業利益、経常利益とも同5割超の増益を確保した（下表参照）。

2011/4 - 12月期と2011/10 - 12月期の前年同期比増減率（会社資料より作成）

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
2011/4 - 12月期(9カ月間)	-10.2%	-72.3%	-62.2%	-57.5%
2011/10 - 12月期(3カ月間)	+4.1%	+51.1%	+53.2%	-13.5%

2012年3月期通期の業績予想について会社側は、昨年12月9日に発表した業績予想を上方修正、売上高は同予想を1000億円、営業利益は同700億円、経常利益は同1000億円、当期利益は同200億円上回る見通しである。連結販売台数が同予想の前提を3万台上回る見通しとなったほか、原価改善の上積みが見込まれるためであり、現時点では為替相場が落ち着いているため、今後はリカバリー増産などで一段の販売台数の上積みを実現できるかが注目されるものと思われる。

来期については、会社側が2012年暦年ベースのグローバル総販売台数（トヨタ自動車、ダイハツ工業、日野自動車の3社合計、連結販売台数とは異なる）を2011年実績比163万台増の958万台とする計画を明らかにしており、天災や大幅な円高などがなければ増収増益に転じ、会社側が中期的な目標としている連結営業利益1兆円程度、営業利益率5%の早期達成が現実味を帯びてくるものと思われる。

連結販売台数（会社資料より作成、単位は千台で予想は会社側）

	2011/3期実績	2012/3期予想	
		前回予想	今回予想
日本	1,913	2,030	2,040(+10)
北米	2,031	1,900	1,910(+10)
欧州	796	820	830(+10)
アジア	1,255	1,330	1,340(+10)
その他	1,313	1,300	1,290(-10)
合計	7,308	7,380	7,410(+30)

その他は中南米、オセアニア、アフリカ、中近東など

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、銘柄の選定、投資判断の最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料は、信頼出来ると考えられる情報に基づいて作成されていますが、安藤証券は、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後、予告なく変更される事があります。事前の了承なく複製または転送等行わないようお願いします。